

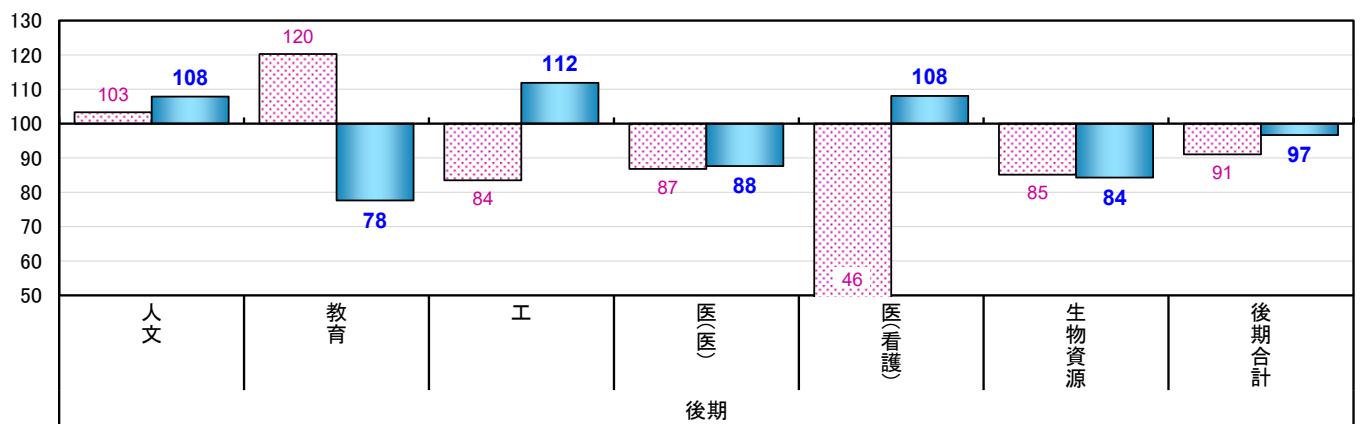
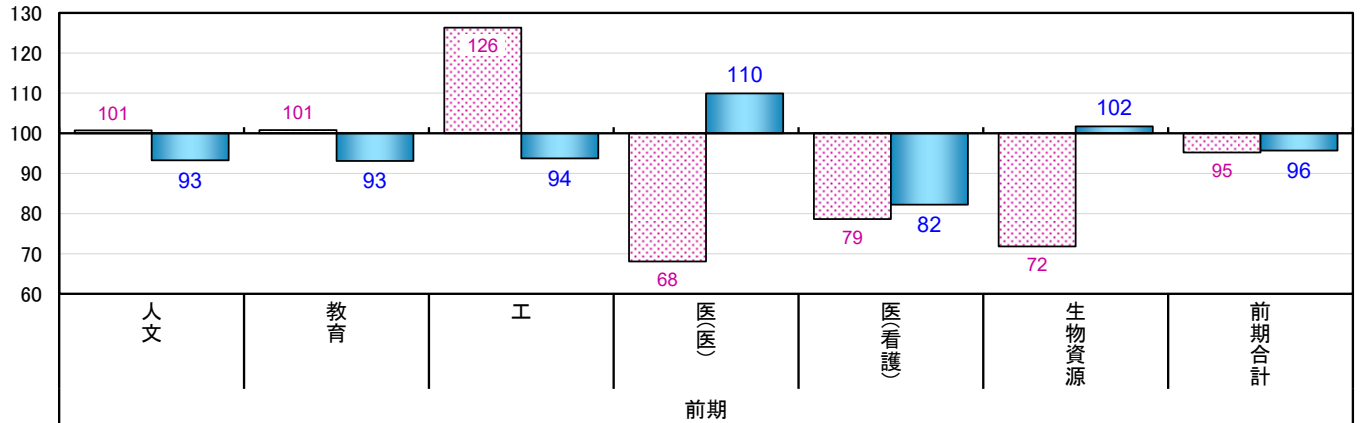
2020年度入試状況分析【国公立大】

三重大：前期・後期ともにやや減少で3年連続減少

前期：-113人 後期：-75人

※前年度の志願者数を100とする指数

□2019年度/2018年度 ■2020年度/2019年度



入試変更点 募集人員：教育(学校教育/数学・情報-情報・中等)…<前>7人、<後>3人→<前>8人、<後>2人
工(総合工/機械工)<後>…13人→15人

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は113人(96)のやや減少で3年連続減少。後期は75人(97)のやや減少で3年連続減少。

＜前期日程＞

- 人文(93)は、やや減少で5年ぶりの減少。学科別では、(文化)(114)は増加で2年連続増加、一方で(法律経済)(82)は系統への低い人気から大幅減少で2年連続減少。
- 教育(93)は、やや減少。2014年度の改組後、前年度の反動による増減が継続。課程・コース・専攻・選修別(以下「募集単位」)では25募集単位中、12募集単位が増加と募集単位別の増減数は拮抗したが、大きな増減率が目立った。増加した募集単位では、(学校教育/英語-初等)(105)を除いて大幅増加、特に(学校教育/技術・ものづくり-初等)(300)は3倍増。一方で減少した募集単位では、(学校教育/音楽-中等)(91)、(学校教育/音楽-初等)(89)を除いて大幅減少。特に、(学校教育/学校-教育学)(28)は激減。
- 工(94)は、改組2年目だが、センター試験と個別試験の配点がほぼ同じで、個別逆転を狙う受験生が集まり、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。コース別では、増加したコースはいずれも10%以上の増加で、特に(総合工/機械工)(139)、(総合工/電気電子工)(139)は大幅増加、一方で、(総合工/総合工)(42)は半減以上の大幅減少。
- 医(医)(110)は、前年度大幅減少の反動に加えて、センター試験の平均点ダウンが目立った国語、数学、英語の配点が1/2に圧縮されることから増加。志願倍率も3.6倍→4.0倍にアップ。
- 医(看護)(82)は、2年連続大幅減少。センター試験重視の配点のため、センター試験の平均ダウンが影響した。
- 生物資源(102)は、系統への人気が高いことから前年度大幅減少の反動はなく、前年度並。学科別では、(生物圏生命化学)(122)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、一方で(共生環境)(85)は大幅減少で3年連続減少。

2020 年度入試状況分析【国公立大】

<後期日程>

- 人文(108)は、増加で2年連続増加。学科別では、(文化)(171)は2年連続減少の反動で大幅増加、一方で(法律経済)(70)は系統への低い人気と前年度増加の反動で大幅減少、志願者数は180人を下回った。
- 教育(78)は、大幅減少。2014年度の改組後、前年度の反動による増減が継続。課程・コース・専攻・選修別(以下「募集単位」)では後期募集を行う11募集単位中、増加した募集単位は4募集単位と減少が目立った。増加した募集単位では、(学校教育/国語一中等)(142)、(学校教育/社会一中等)(128)は大幅増加、一方で減少した募集単位では、(学校教育/数学一初等)(92)を除いて大幅減少。特に、(学校教育/数学一中等)(50)、(学校教育/社会一初等)(50)は半減。
- 工(112)は、改組2年目だが、前年度大幅減少の反動で増加。コース別では、(総合工/応用化学)(149)は比較的個別試験の配点比が高く、個別逆転を狙う受験生が集まり大幅増加、(総合工/建築)(118)は旧(建築)から2年連続大幅減少だった反動で大幅増加だった。
- 医(医)(88)は、2年連続大幅減少で、志願者数は130人を下回った。センター試験の平均点ダウンにより、センター試験重視の配点で、個別試験が小論文、面接で逆転が難しいとして敬遠された。
- 医(看護)(108)は、前年度半減以上の大幅減少だったが、センター試験の平均点ダウンにより、センター試験重視の配点を敬遠されて、増加率は小さかった。
- 生物資源(84)は、系統への人気が低いことから大幅減少で3年連続減少。学科別では、(共生環境)(133)が2年連続大幅減少の反動で大幅増加、一方で(資源循環)(54)は半減近い大幅減少で2年連続減少。